

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 事業年度                      | 毎年4月1日から翌年3月31日まで   |
| 定時株主総会                    | 毎年6月開催  |
| 基準日                       | 定時株主総会 毎年3月31日<br>期末配当金 毎年3月31日<br>中間配当金はございません。  |
| 株主名簿管理人および<br>特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社   |
| 株主名簿管理人<br>事務取扱場所         | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部   |
| 郵便物送付先                    | 〒168-0063<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  |
| 電話照会先                     | ☎ 0120-782-031  |
| インターネットホームページURL          | <a href="https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>   |
| 公告方法                      | 当社のホームページに掲載します。<br><a href="https://www.advanex.co.jp/ir/public-announcements/">https://www.advanex.co.jp/ir/public-announcements/</a><br>ただし、事故その他やむを得ない事由がある場合、<br>日本経済新聞に掲載します。 |
| 上場証券取引所                   | 東京証券取引所市場第一部<br>(証券コード:5998)  |

株主総会決議通知の発送を取り止め、本総会の結果は当社ホームページ(<https://www.advanex.co.jp/ir/>)に掲載させていただく予定です。

## マイナンバー制度に関する手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主さまからお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

### 株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

### 主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

### マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主さま  
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主さま  
下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。  
三井住友信託銀行 証券代行部 ☎ 0120-782-031

# ADVANEX NOW

第73期のご報告  
2020年4月1日～2021年3月31日

## フォーカス

# 匠の技術





「情報の共有化」と「課題の顕在化」を徹底し、ガバナンスとリスクマネジメントを強化していきます。

株式会社アドバネクス  
代表取締役社長 かとう せいや  
阿部 靖也

**Q1 2021年3月期は新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年でしたが、業績を振り返りましてどのように評価されますか？**

第1四半期(4-6月)は新型コロナウイルスの影響を受け厳しい状況でしたが、第2四半期(7-9月)は前期水準近くまで回復し、第3四半期(10-12月)および第4四半期(1-3月)は前期を上回る勢いとなりました。下期に上期の悪化分を相当挽回(営業利益 上期:△296百万円、下期:473百万円)できましたので、全体的には評価いただける結果になったのではと思います。下期の好業績の要因は、市場の回復に加えて、業績が低迷していた4-6月の間にウェブを最大限に活用してお客様との関係強化を図ったことや、工場において徹底した生産効率改善活動を行ったことなどです。社員全員が厳しい1年間になることを覚悟しつつ、下期の需要拡大にも期待し準備してきたことが奏功しました。また、経費削減を徹底しコスト意識が高まったことや、今まで顧客との軋轢を避けて手が出せていなかった不採算製品の見直しを行ったことも業績改善に寄与しました。

**Q2 この度、新中期経営計画を公表されましたが方針や内容についてご説明いただけますか？**

新中期経営計画のローガンを「飛躍に向け、力を貯める3

年間」としました。当社は短期間に埼玉工場、メキシコ工場、チェコ工場、インド工場など多くの工場を新設してきましたが、急な拡大だったため様々なところで歪が生じ、いわば不健康な状態にありました。新中期経営計画においては、それらの拠点を一つ一つ健康な状態にして、健全に成長するための土台を作ります。また、ガバナンス強化を徹底していきます。従来当社は現地メンバーに海外子会社経営を任せ傾向が強かったのですが、自助努力を促す反面、経営の透明性や連携に課題がありました。2020年9月に代表取締役に就任して以降、密なコミュニケーションやガバナンス強化に努めてきましたが、より一層それらを進めていきたいと思っています。

※「新中期経営計画」はHPに公開しています。

**Q3 昨今、全世界でEV化や脱炭素化の動きが加速していますが、御社のビジネスには関連がありますか？**

当社とEVは親和性が高く、パワーコントロールユニットやインバーターなどの電源周りやバッテリーなど多くの主要な部分に当社製品が使われます。また、自動運転に使われる各種センサーにも多くの当社製品が使われる見通しなので、次世代自動車1台に含まれる当社製品の合計額はガソリン車より相当多くなると見えています。更にプラスチック筐体の

自動車部品の締結部分を補強するインサートカラーは自動車の軽量化・燃費性能向上に寄与しますので、自動車一つとっても当社製品は多角的に脱炭素化に貢献しています。また、自動車以外にも、当社オリジナル商品のボルト・ナット脱落防止具(ロックワン)や締結補強具(タングレス・インサート)は風力発電や太陽光発電に使われています。当社製品やビジネスが直接的に脱炭素化をリードするわけではありませんが、EVや再生可能エネルギーの市場規模が大きくなればなるほどビジネスチャンスが広がり、脱炭素化への貢献度も高まっていきます。

**Q4 報道等では半導体不足や材料不足が取りざたされていますが、御社に影響はありますか？**

報道等では例えばトヨタ自動車は国内において半導体供給問題の影響はないと伝えられていますが、一方、樹脂材などの不安は払しょくできていません。去年の4月以降、コロナの影響を悲観し多くのメーカーが設備投資を控えたこと、北米の天候不順によりプラスチック材料に関連する工場が停止したことなどが原因です。材料が足りなくなると需給バランスにより価格が高騰しますので、今期は供給とコスト面で不安を抱えたままのオペレーションになると見えますが、公表した数字はしっかり達成したいと思っています。

**Q5 アメリカ子会社の工場をカリフォルニア州からテネシー州に移転されるとのことですが、背景と狙いを教えてくださいませんか？**

カリフォルニア州およびその周辺には米国での注力市場である自動車や医療関連の顧客が少なく同産業の中心地の中西部や南部への輸送コストが嵩んでいたこと、同州は人件費や光熱費などが割高なことから予てより移転を検討してきました。テネシー州は自動車部品や医薬品の主だったメーカーが集積していますので、そこに移転することで輸送費の削減が図れますし、同州の人件費はカリフォルニアよりも2割以上安いので固定費も削減できます。また、顧客のR&D拠点到アプローチし易くなることから受注獲得にも有利になります。第一期工事は3800㎡程度とミニマムからスタート

し、事業の拡大に沿って増築していく計画です。

**Q6 前回の株主通信のインタビューにおいて「課題の顕在化」や「ガバナンスの強化」を掲げられていましたが、社長就任からこの半年間でどんな変化がありましたか？**

悪い報告であっても何でも言いやすい雰囲気や環境を作ってきました。上位者は悪い報告を聞いても決して感情的にならず、理解し解決に導いていくことが必要です。報告を躊躇させるような組織は問題を起こします。また、上位者は知らないことや教えてもらうことを恥と申し訳がちですが、“知ったかぶり”は間違った判断をする原因となります。私はそうならないように自らを諫め、関係者で寄って集って議論し、これ以上ないベストな解決策を模索することに努めてきましたし、幹部社員には知ったかぶりをせず、裸の王様にならないように求めています。そのような姿勢や方針を示し実行してきたことで「課題の顕在化」と「ガバナンスの強化」はかなり進んだのではないかと考えています。

**Q7 今期はどのような一年になるでしょうか？**

読み切れないリスクが多く、世界経済全体が好転するまでには時間がかかると思いますが、当社は成長していく前提で備えていきます。一方、最悪の事態も想定しながらどんな環境変化にも対応できるようにもっていきます。経費を削減する、資金は確保する、キャッシュアウトは極力減らす一方、必要なものにはしっかり投資するなど経営として当たり前のことは徹底してやっています。実行するのは社員なのでがんばったら報われることも示していきます。

**Q8 最後に株主の皆様へ何かメッセージをお願いいたします。**

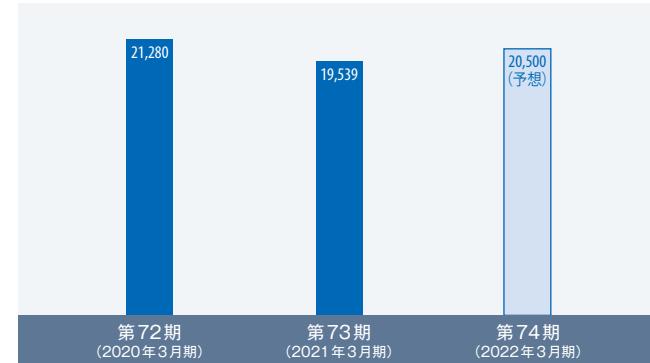
社員一人一人が自分のために向上心をもって楽しく仕事することで業績が改善し、配当や株価・企業価値向上という形で株主の皆様へ還元するという流れにもっていきたいと思っています。そのために社長である私は課題を顕在化させ、適切な経営判断をきっちりと行い、社員が楽しくがんばれる環境をしっかりと作っていきますので、今後とも何卒ご支援を賜りたくよろしくお願いたします。

業績総括

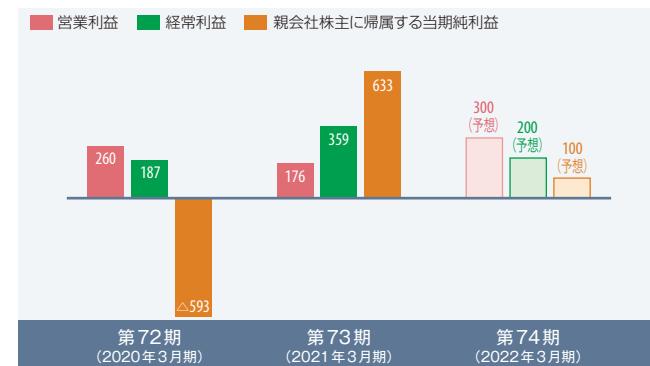
第73期(2021年3月期)の業績につきましては、売上高は前期比8.2%減の195億39百万円となり、営業利益は同32.4%減の1億76百万円となりました。一方、経常利益は政府からの補助金や為替差益等があったことから同91.6%増の3億59百万円となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益はアメリカ子会社のカリフォルニア工場売

却による固定資産売却益を計上したことから6億33百万円(前期は5億93百万円の損失)となりました。第74期は、為替レートを1米ドル105円と想定し、売上高は前期比4.9%増の205億円、営業利益は同70.5%増の3億円、経常利益は同44.3%減の2億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同84.2%減の1億円となる見込みです。

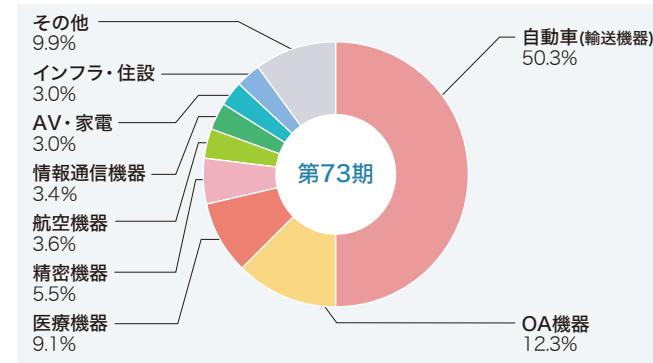
売上高(百万円)



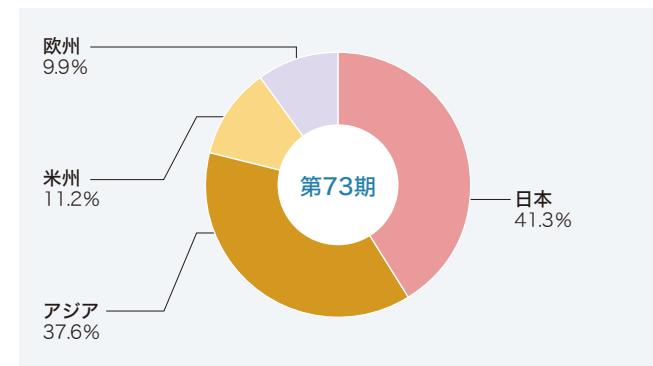
営業利益／経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)



市場別売上高構成比



地域別売上高構成比

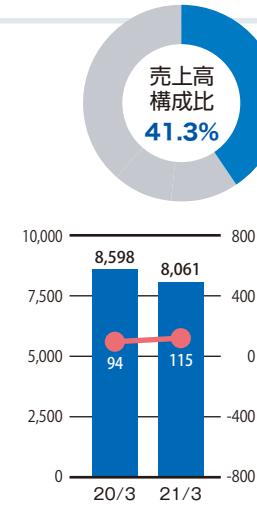


※各売上高構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しております。

売上 セグメント利益 (単位:百万円)

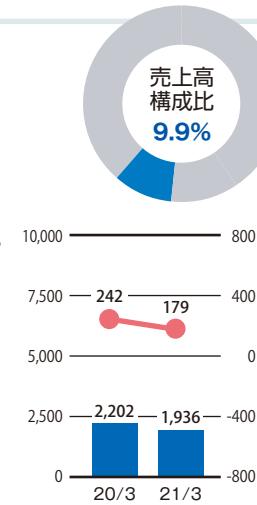
日本

OA機器向け需要減少の影響が大きく、売上高は前期比6.2%減の80億61百万円となりましたが、セグメント利益は固定費削減の取組みが奏功したことなどから同21.8%増の1億15百万円となりました。



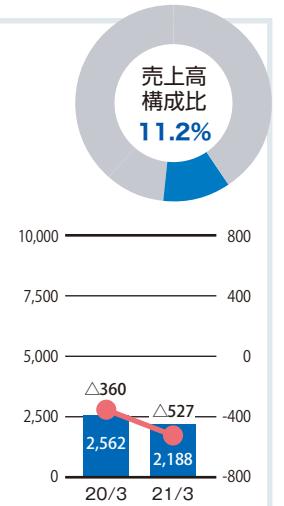
欧州

規格品の需要が減少したことなどから売上高は前期比12.1%減の19億36百万円となりました。セグメント利益はチェコ工場の維持費用等の増加などにより同26.1%減の1億79百万円となりました。



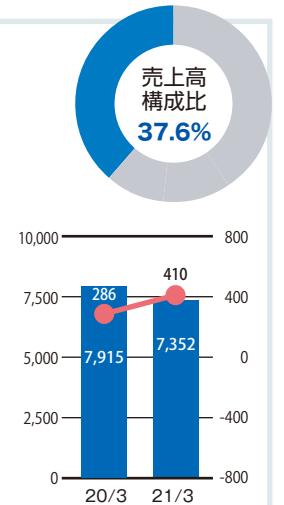
米州

自動車向けの需要が減少したことに加え、メキシコ工場がメキシコ政府の指示により閉鎖していた期間があったことなどから、売上高は前期比14.6%減の21億88百万円、セグメント損失は5億27百万円(前期は3億60百万円の損失)となりました。



アジア

自動車、OA機器向け需要減少の影響が大きく、売上高は前期比7.1%減の73億52百万円となりました。セグメント利益は固定費削減の取組みが奏功したことなどから同43.0%増の4億10百万円となりました。



# 匠の技術

山本隆弘さんは修士課程を経て1999年に入社した中堅社員であり、現在は金型設計課や金型工作課、VA技術課（バリューアナリシスの略。コスト当たりの機能最大化を図る組織）を束ねる第一設計部の部長です。今回、バスバー立上げの中心人物として活躍しました。

## 学生の頃はどんなことをされてきましたか？

大学では金属工学を専攻し、その研究室では宇宙飛行士の毛利衛さんのプロジェクトに参画していました。研究室では「アルミとチタンの合金の凝固組織のメカニズム」を解明するためJAXA（宇宙航空研究開発機構）のロケットを使った微小重力下での実験を行っていました。幸いその実験は成功し仮説の正しさを証明できたなど、成果を出すことができました。

## 今回のバスバーのプロジェクトではどのような役割でしたか？

このバスバーは成形、洗浄、梱包、トレー、クリーンルームなど工程や専門性が多岐にわたり、社内外の有識者を結集し知恵を出し合う必要があったのでその「旗振り役」をやりました。また、同時にコストを算出するための「見積もり」も担当しました。「見積もり」は、単にコストを機械的に積み上げるのではなく、知恵を絞ってどうしたらコストを下げられるか考えなくてはなりません。一方で、おおよそではなく正確に算出する必要もあります。これを誤ると顧客のターゲットコストに届かず受注できなかつたり、受注しても想定していた採算が取れなかつたりします。今回は洗浄やトレーなど専門外のことにもある程度精通しなければならなかったので勉強もしました。



山本さん

※緊急事態宣言下のためウェブで取材しました

## バスバーの立上げで苦労したことはなんですか？

お客様の要求事項を守りつつコストを下げなければならなかったことです。コストダウンの方策は勝手には実施できず、お客様から承認を得る必要があります。承認を得るにはいろいろなデータの裏付けを示し、納得してもらわなければなりません。今回、提案する前に、お客様の製造工程やエンドユーザー（自動車メーカー）での使い方などを聞きました。それを踏まえた上で、工程の簡略化など当社側のコスト削減案のみならず、お客様側の使い勝手が向上する提案を持っていきました。

## 仕事において心がけていることやこだわりは何ですか？

関係者間でしっかりと情報共有し、認識や方向性を合わせてから臨むことです。そのためには密にコミュニケーションをとる必要があります。コミュニケーションをとる上で重要なのは①ロジカル、②エモーショナル、③共感、の3つと考えています。大学の研究室で学んだことでもありますが、データに対して真摯に向き合いロジカルに客観的な説明ができなければ相手は納得してくれません。また、ロジカルだけではなく、キーポイントに対してエモーショナルに訴えることも重要です。

## 山本さんにとって匠とはどのような人でしょうか？

一般的な「匠」のイメージは「磨き上げられた技にプライドを持ち妥協せずに特定の分野を極める人」ですが、当社においてはこのような「匠」だけではなく、「マルチなスキルを持ったうえで多角的な視点で解決策を提案し決断できる人」も求められていると思います。まだまだ力不足ではありますが、当社の持つそれぞれの尖った技術を有機的に組み合わせる高い付加価値を創出できるような、私が理想とする「匠」に近づいていけたらと思っています。

# EVやハイブリッドカーに多用されるバスバーの製造工程

当社はコイリング機により線材をコイル状に成形する線ばね、プレス機により板材を成形する板ばねやプレス加工品、金属とプラスチックを一体成型するインサートモールドなど様々な加工技術を保有しています。今回紹介するバスバーはプレス加工品ですが、成形以外にも様々な工程や要求事項があります。

## バスバーとは

バスバーとは高圧大電流が流れる部分に使用される導体で、EV（電気自動車）やハイブリッドカーなど高圧電流を扱うものに多用されています。一般的に銅が使われることが多く、今回紹介するバスバーも銅製です。昨今の世界的なEV化加速の流れもあり、当社製バスバーは今後需要が急拡大していく見通しです。

## EVやハイブリッドカーに求められるバスバー

発火などの事故を起こさないためにバスバーにはホコリや金属粉、表面の汚れなどが付着していないこと、つまり「高いクリーン度」が求められます。また、お客様の製造工程における「組立てやすさ」も重要な要素です。

## 製造工程におけるポイント

今回紹介するバスバーは形状や寸法精度、品質などといった通常のプレス加工品に求められる項目以外に、様々なポイントがあります。

### ①成形

上述のとおり、EVやハイブリッドカーに搭載されるバスバーは金属粉の付着を嫌うので、金型設計を工夫するなど通常よりも金属粉やバリが発生しにくい方法にて加工しています。

### ②洗浄

バスバーは「高いクリーン度」が求められるので、加工後に洗浄します。金属粉、ホコリ、表面の汚れはそれぞれ別々の洗浄液、設備で除去する必要があり洗浄工程も複雑です。

### ③トレー

トレーに並べた状態で洗浄するのでトレーは洗浄液に浸かっても変形・膨張・劣化しない材質で、また、お客様の自動製造ラインに合うピックアップしやすいレイアウトでなければなりません。これらのニーズを満たすためにトレーも独自に開発・設計しました。

### ④梱包

洗浄後に異物が混入しないように密封包装します。目に見えないほどの小さなホコリでも付着すると問題になるので、包装は特別な吸気と排気設備により空気中のホコリを除去した「クリーンルーム」で行われます。

## 要求事項の充足とコストの両立

「お客様のターゲットコストに合わせた上、当社でも収益を上げる」ことが出来なければこのビジネスは成立しません。よって当社においては投資や材料費を抑える一方、製造効率を上げるなどのコストダウンの努力をします。そのために①プロジェクトチームによる加工・洗浄・梱包・トレーの共同研究・検証、②お客様ニーズの検証、などにより如何に要求事項を満たしたうえでコストダウンするかを徹底的に議論してきました。元々それぞれの工程においてある程度のノウハウがあり、プロジェクトチームも上手く機能したことから競合他社より良い条件を提示し、受注することができました。



※機密情報であるため、写真にボカシを入れています。

## 連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

|                | 第72期<br>2020年3月31日現在 | 第73期<br>2021年3月31日現在 |
|----------------|----------------------|----------------------|
| <b>資産の部</b>    |                      |                      |
| 流動資産           | 10,566               | 12,143               |
| 固定資産           | 11,559               | 11,587               |
| 有形固定資産         | 10,866               | 10,859               |
| 無形固定資産         | 88                   | 62                   |
| 投資その他の資産       | 604                  | 665                  |
| <b>資産合計</b>    | <b>22,125</b>        | <b>23,730</b>        |
| <b>負債の部</b>    |                      |                      |
| 流動負債           | 9,866                | 9,970                |
| 固定負債           | 7,260                | 7,436                |
| <b>負債合計</b>    | <b>17,127</b>        | <b>17,407</b>        |
| <b>純資産の部</b>   |                      |                      |
| 株主資本           | 5,754                | 6,355                |
| 資本金            | 1,000                | 1,000                |
| 資本剰余金          | 250                  | 250                  |
| 利益剰余金          | 4,610                | 5,201                |
| 自己株式           | △105                 | △96                  |
| その他の包括利益累計額    | △789                 | △55                  |
| 新株予約権          | 33                   | 24                   |
| <b>純資産合計</b>   | <b>4,998</b>         | <b>6,323</b>         |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>22,125</b>        | <b>23,730</b>        |

73期末における総資産は前期末に比べ16億円5百万円増加し、237億30百万円となりました。

## 資産の部

資産の部においては、流動資産合計額が15億77百万円増加し、121億43百万円となりました。主な理由は、現金及び預金が11億22百万円、受取手形及び売掛金が5億49百万円増加したことによるものであります。また、固定資産合計額は28百万円増加し、115億87百万円となりました。有形固定資産が7百万円、無形固定資産が26百万円減少しましたが、投資その他の資産が61百万円増加したことによるものであります。

## 負債の部

負債の部においては、負債合計額は174億7百万円となり、前期末に比べ2億80百万円増加しました。主な理由は、借入金5億71百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金3億85百万円、流動負債その他が2億39百万円及びリース債務が2億19百万円増加したことによるものであります。

## 純資産の部

純資産の部においては、純資産合計額が63億23百万円となり、前期末に比べて13億25百万円増加しました。主な理由は、親会社株主に帰属する当期純利益が6億33百万円発生したことにより、株主資本が6億円増加したこと及び為替換算調整勘定が6億19百万円増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は26.5%（前期末は22.4%）となりました。

## 連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

|   | 第72期<br>自2019年4月1日<br>至2020年3月31日 | 第73期<br>自2020年4月1日<br>至2021年3月31日 |
|---|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高                                     | 21,280                            | 19,539                            |
| 売上原価                                    | 16,344                            | 15,138                            |
| 売上総利益                                   | 4,936                             | 4,401                             |
| 販売費及び一般管理費                              | 4,675                             | 4,225                             |
| 営業利益                                    | 260                               | 176                               |
| 営業外収益                                   | 138                               | 450                               |
| 営業外費用                                   | 211                               | 267                               |
| 経常利益                                    | 187                               | 359                               |
| 特別利益                                    | 8                                 | 879                               |
| 特別損失                                    | 569                               | 383                               |
| 税金等調整前当期純利益又は<br>税金等調整前当期純損失(△)         | △373                              | 855                               |
| 法人税等                                    | 219                               | 222                               |
| 親会社株主に帰属する当期純利益又は<br>親会社株主に帰属する当期純損失(△) | △593                              | 633                               |

## 売上高

10月以降の世界経済の回復により下期は前年同期比を上回りましたが、新型コロナウイルスの影響による4-6月の落ち込みが大きかったことから前期比8.2%減の195億39百万円となりました。

## 営業利益

10月以降は売上高の回復に加え固定費と経費の圧縮を徹底したことから下期の営業利益は4億73百万円でしたが、上期は新型コロナウイルスの影響により2億95百万円の営業損失であったことから、通期では前期比32.4%減の1億76百万円となりました。

## 営業外収益

為替レートの戻りによる為替差益や新型コロナウイルスに対する補助金収入などがあったことから前期に比べ3億12百万円増加しました。

## 営業外費用

支払利息の増加等により前期に比べ56百万円増加しました。

## 特別利益

アメリカのテネシー州への工場移転に伴いカリフォルニア工場を売却したことなどにより前期に比べ8億71百万円増加しました。

## 特別損失

アメリカの工場移転に伴う事業再編損などがありましたが、前期（主に資源国通貨為替評価損）に比べ1億86百万円減少しました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

|                     | 第72期<br>自2019年4月1日<br>至2020年3月31日 | 第73期<br>自2020年4月1日<br>至2021年3月31日 |
|---------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー    | 1,281                             | 1,404                             |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー    | △2,281                            | 327                               |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    | 183                               | △753                              |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額    | △89                               | 143                               |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △905                              | 1,121                             |
| 現金及び現金同等物の期首残高      | 2,864                             | 1,971                             |
| 現金及び現金同等物の期末残高      | 1,971                             | 3,093                             |

## キャッシュ・フロー

現金および現金同等物の期末残高は、前期末に比べ11億21百万円増加し、30億93百万円となりました。

会社概要

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 会社名   | 株式会社アドバネクス (Advanex Inc.) |
| 本社所在地 | 〒114-8581 東京都北区田端六丁目1番1号  |
| 設立    | 1946年11月                  |
| 資本金   | 10億円                      |
| 事業内容  | 精密ばね等の製造販売                |
| 従業員数  | 連結:1,960名 単体:364名         |

株式の状況

|               |             |
|---------------|-------------|
| 会社が発行できる株式の総数 | 12,500,000株 |
| 発行済株式の総数      | 4,153,370株  |
| 株主数           | 5,578名      |

大株主

| 株主名                     | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|-------------------------|----------|----------|
| AAA株式会社                 | 300      | 7.22     |
| スマート有限会社                | 290      | 6.98     |
| 加藤雄一ホールディングス株式会社        | 280      | 6.75     |
| アーク株式会社                 | 205      | 4.94     |
| ART株式会社                 | 200      | 4.82     |
| 株式会社三菱UFJ銀行             | 198      | 4.79     |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 170      | 4.10     |
| エース株式会社                 | 142      | 3.42     |
| ASADA株式会社               | 133      | 3.21     |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口)      | 98       | 2.36     |

(注) 当社は自己名義株式を55,446株(1.34%)保有しています。  
また、持株比率は自己株式を含めて計算しております。  
各持株比率は小数点第3位以下を四捨五入して計算しております。

株価情報



国内事業拠点

|          |             |
|----------|-------------|
| 本社       | 東京都北区       |
| 新潟工場     | 新潟県柏崎市      |
| 埼玉工場     | 埼玉県本庄市      |
| 大分工場     | 大分県中津市      |
| 青森工場     | 青森県南津軽郡田舎館村 |
| 千葉工場     | 千葉県船橋市      |
| 郡山試作センター | 福島県郡山市      |
| 物流センター   | 千葉県松戸市      |
| 中部オフィス   | 愛知県刈谷市      |
| 新大阪オフィス  | 大阪府大阪市      |
| 埼玉開発センター | 埼玉県蕨市       |

海外事業拠点

|     |  |
|-----|--|
| 米国  | Advanex Americas, Inc.<br>Advanex de Mexico S.de R.L. de C.V.  |
| 欧州  | Advanex Europe Ltd.<br>Advanex Czech Republic s.r.o<br>Advanex Deutschland GmbH<br>Advanex (Singapore) Pte. Ltd.<br>Advanex (Thailand) Ltd.<br>Advanex (Vietnam) Ltd.<br>PT. Advanex Precision Indonesia<br>Advanex (India) Private Limited<br>Advanex (Changzhou) Inc.<br>Advanex (Dalian) Inc.<br>Advanex (Dongguan) Inc.<br>Advanex (Shanghai) Inc.<br>Advanex (Hong Kong) Ltd. |
| アジア |  |



本社



新潟工場



埼玉工場



大分工場



千葉工場